



## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、『スパークス・ジャパン・エクイティ・ファンド』は、このたび、2020年5月25日をもちまして満期償還となりました。

当ファンドは日本の株式を主要な投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目標に、積極的な運用を行いました。ここに、運用状況及び償還内容をご報告申し上げます。

これまでご愛顧賜りましたこと対しまして、厚く御礼申し上げます。

### < お問い合わせ先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社  
東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス  
リテールBDマーケティング部  
電話：03-6711-9200(代表)  
受付時間：営業日の9時～17時  
ホームページアドレス：<https://www.sparx.co.jp/>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

### < 閲覧方法 >

上記URLにアクセス⇒「スパークスの投資信託」より「投資信託一覧」の当ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

# 償還交付運用報告書

## 満期償還

# スパークス・ジャパン・ エクイティ・ファンド

愛称 **ビッグウェイブ 21**

追加型投信/国内/株式

第20期(償還日 2020年5月25日)  
作成対象期間(2019年5月28日～2020年5月25日)

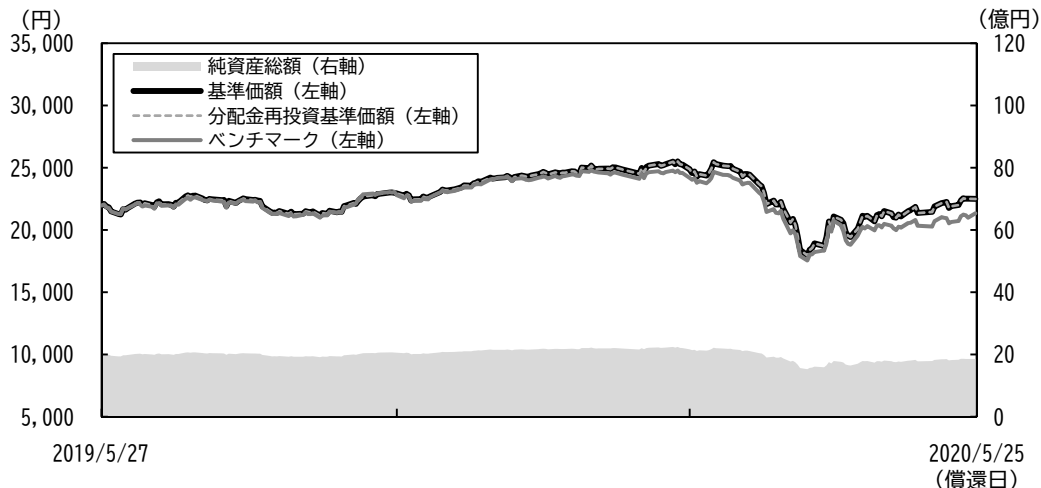
償還日 (2020年5月25日)	
償還価額	22,495円29銭
純資産総額	1,852百万円
第20期 (2019年5月28日～2020年5月25日)	
騰落率	2.4%
分配金合計	－円

(注) 騰落率は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

## 運用経過

### ■ 基準価額等の推移 (2019年5月28日～2020年5月25日)

基準価額は期首に比べ2.4%(分配金再投資ベース)の上昇となりました。



第20期首 : 21,969円  
 償 還 日 : 22,495円29銭(既払分配金0円)  
 騰 落 率 : 2.4%(分配金再投資ベース)

- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ ベンチマークをTOPIXと規定しますが、TOPIXの業種別ウェイトにしばられることなく、あくまで個別銘柄の積上げをベースにポートフォリオを構築します。
- ※ ベンチマークは期首(2019年5月27日)の基準価額に合わせて指数化しております。

### ■ 基準価額の主な変動要因

当期は前期に続き日本株式市場が下落する難しい相場展開となりましたが、ボトムアップ・リサーチを通じて着実に利益成長の見込める企業に絞り込んで投資を行った結果、ファンドの基準価額は2.4%上昇いたしました。

■ 1万口当たりの費用明細

項 目	当期 2019年5月28日～2020年5月25日		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬 (投信会社)	423円 ( 224)	1.862% (0.986)	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 ・ 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ・ ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	( 174)	(0.766)	
(受託会社)	( 25)	(0.110)	
(b) 売買委託手数料 (株 式)	10 ( 10)	0.044 (0.044)	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 有価証券等を売買する際に発生する費用
(c) その他費用 (監査費用)	1 ( 1)	0.004 (0.004)	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ ファンドの監査法人等に対する報酬および費用 ・ 信託事務の処理等に関するその他の諸費用
(その他)	( 0)	(0.000)	
(d) 実績報酬	－	－	・ ファンドの運用実績に応じて委託会社が受け取る運用の対価
合 計	434	1.910	

期中の平均基準価額は22,708円です。

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

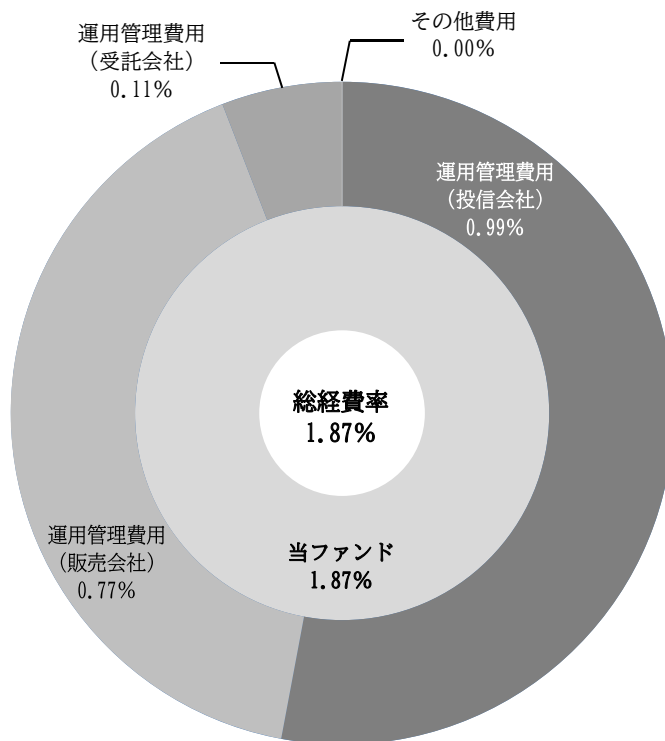
(注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 実績報酬は、決算期末に確定した1万口当たりの金額です。なお、解約時に確定した金額は考慮していません。

(参考情報)

○ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.87%です。



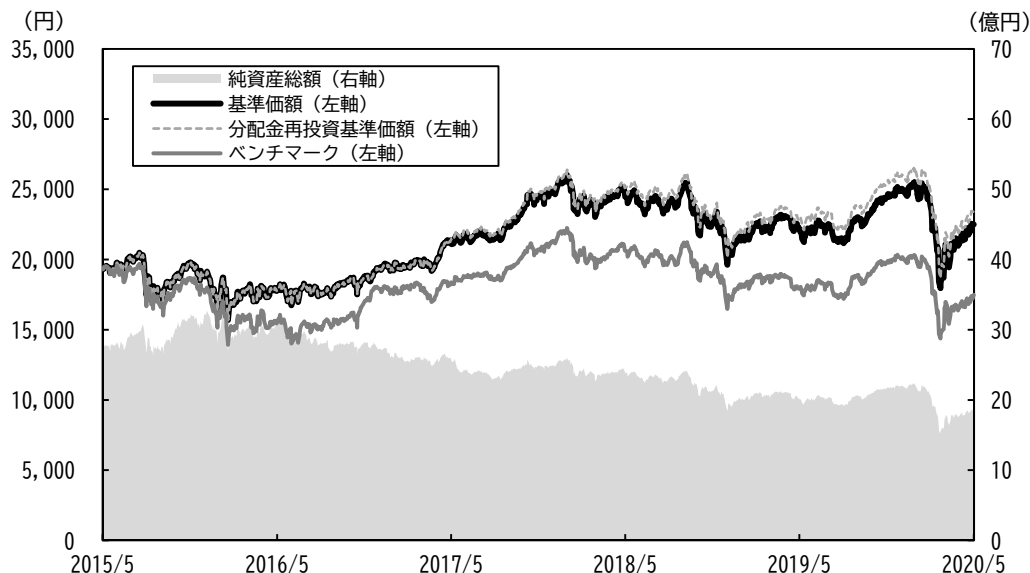
(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■ 最近5年間の基準価額等の推移 (2015年5月25日～2020年5月25日)



- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ ベンチマークは2015年5月25日の基準価額に合わせて指数化しております。

	2015/5/25 決算日	2016/5/25 決算日	2017/5/25 決算日	2018/5/25 決算日	2019/5/27 決算日	2020/5/25 償還日
基準価額 (円)	19,309	17,861	21,159	24,470	21,969	22,495.29
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	300	300	300	—
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 7.5	20.1	17.1	△ 9.0	2.4
ベンチマーク騰落率 (%)	—	△19.1	17.5	12.2	△12.7	△ 2.9
純資産総額 (百万円)	2,735	3,066	2,576	2,380	1,999	1,852

- ※ ベンチマークは「TOPIX」です。  
ベンチマークの詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

## ■ 投資環境

当期、当ファンドのベンチマークであるTOPIXは前期末に比較して2.9%の下落となりました。

前半は米中貿易摩擦が懸念されたものの株価に大きな変動はなく横ばい圏で推移しました。9月に入ると為替市場において円安ドル高傾向となり始め、10月には米中貿易交渉の進展に対する期待が高まり始めたことから株価は上昇基調となりました。1月に中国で見られ始めた新型コロナウイルスの感染が2月に入って世界的に急拡大したことを受けて、2月後半から株価は急落しました。3月に入っても下落が続いた株価は3月半ばに底を打って反発しましたが、下落分を取り戻すには至らずに期末を迎えました。

## ■ ポートフォリオ

当ファンドではボトムアップ・リサーチに基づく個別銘柄選択により、時価総額や業種等の銘柄属性にとらわれずにポートフォリオを構築しております。銘柄選定においては「魅力的なビジネスを安く買う」という基本方針の下、利益成長が見込める企業を選別して投資を行っております。

当期はファンダメンタルズの悪化が確認された銘柄や株価に割安感がなくなった銘柄の売却を進める一方で、成長力の高まりが確認された銘柄や株価の下落により魅力が増した銘柄への投資を行いました。

主な個別銘柄の例として、新規に投資を行った銘柄はホームエンターテイメント事業を営む任天堂、ITソリューションを提供する富士通、ディスカウントストアを運営するパン・パシフィック・インターナショナルホールディングスなどです。それぞれへの投資理由は以下です。

任天堂はデジタル販売へのシフトによる事業安定性と収益性の向上が期待できること。富士通は提案型・オープン化にシフトする経営戦略に対して期待が高まったこと。パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスは国内でのシェア拡大に加えて海外展開の道筋が見え始めたこと。

一方で、多角的金融サービスのオリックス、総合化学会社の三菱ケミカルホールディングス、ガス器具メーカーのリンナイなどの株を売却しました。それぞれの売却理由は以下の通りです。オリックスは航空機リースなど一部事業の先行きに対する懸念が大きくなってきたこと。三菱ケミカルホールディングスは期待していた事業ポートフォリオ改革の進展が芳しくないこと。リンナイは資本効率の低下という課題に明確な対策が示されないこと。

また、当期で満期償還を迎えることから現金化のために期末に保有していた全株式を売却いたしました。

当ファンドは個別銘柄を選別して積み上げる形で構成されていることから、主なプラス要因、マイナス要因の説明として、ファンドのパフォーマンスに影響した個別銘柄の株価変動要因について記載します。

### (主なプラス要因)

当ファンドのパフォーマンスにプラスに寄与した主な銘柄は特殊化学品メーカーの信越化学工業、半導体製造装置メーカーの東京エレクトロン、再生エネルギーを主力事業とするウエストホールディングスなどです。

信越化学工業と東京エレクトロンは主要顧客業種である半導体産業が新型コロナウイルス感染症を先端としたデータ通信需要の増加によって活況となりはじめたことから株価が上昇しました。

ウエストホールディングスは再生可能エネルギーに対する需要の増加による同社事業の拡大への期待から株価が上昇しました。

### (主なマイナス要因)

当ファンドのパフォーマンスにマイナスに影響した主な銘柄は自動車メーカーのスズキ、小売と金融を営む丸井グループ、人材サービス業のパーソルホールディングスなどです。

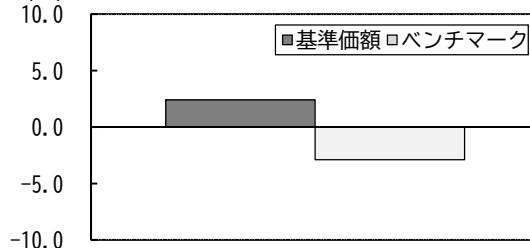
これらの銘柄は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて大きく下落しました。いずれも主力事業の需要急減に対する懸念から株価が下落したものと思われます。

## ■ ベンチマークとの差異

当期末のファンドの騰落率は2.4%となり、ベンチマークであるTOPIXの騰落率-2.9%を上回りました。

ボトムアップ・リサーチを通じてファンダメンタルズが良好な会社、改善傾向にある会社を選別して投資した結果、ベンチマークを上回るパフォーマンスとなりました。

当ファンドの基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)  
(%)



第20期  
(2019/5/28 ~ 2020/5/25)

(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

## ■ 分配金

該当事項はありません。

## ■ 償還価額

当ファンドは2020年5月25日をもちまして満期償還となり、1万口当たりの償還価額(税込み)は22,495円29銭となりました。これまでご愛顧賜りましたことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

## お知らせ

該当事項はありません。

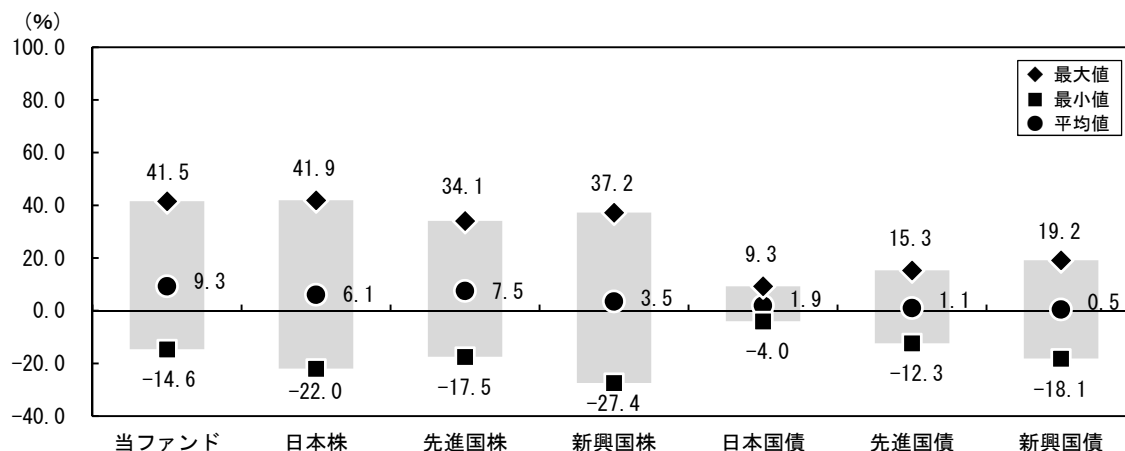
## 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式
信 託 期 間	2000年5月26日から2020年5月25日まで
運 用 方 針	信託財産の中長期的な成長を目標に、積極的な運用を行うことを基本とします。
主 要 投 資 対 象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
運 用 方 法	主としてわが国の金融商品取引所上場株式から中長期的に高い成長が予想される産業、企業にフォーカスし、個別企業に対する訪問調査をベースに一社一社選別し、積極的な運用を行います。
分 配 方 針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</li> <li>・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。</li> <li>・留保益の運用については、収益分配に充てず信託財産内に留保した利益等については、運用の基本方針に基づき運用を行います。</li> </ul>



(参考情報)

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2015年5月末～2020年4月末)



(注1) 2015年5月～2020年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注2) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注3) 当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注4) 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

\* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

\* 詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### ■ 組入資産の内容 (2020年5月25日現在)

信託終了日における有価証券の組入れはございません。

#### < 資産別配分 >



#### < 国別配分 >



#### < 通貨別配分 >



※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

### ■ 純資産等

項 目	償還時 2020年5月25日
純資産総額	1,852,779,938円
受益権総口数	823,630,107口
1万口当たり償還価額	22,495.29円

(注) 当期中における追加設定元本額は3,365,957円、同解約元本額は89,764,052円です。

## 指数に関して

### ・ファンドのベンチマークである「東証株価指数(TOPIX)」について

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

## < 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

### 日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東証株価指数(TOPIX)をベースに支払い配当金を考慮したものです。

### 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

### 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

### 日本国債：NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社およびその許諾者に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

### 先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

### 新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。